

I 研究主題

「自ら学びを創りだす子どもの育成」

～『アクティブ・ラーニング』の視点から考える、戸部の「これまで」と「これから」～

1 研究主題設定の理由

本校は、創立135年の伝統をもつ学校である。みなとみらい地区が近くにある一方で、昔ながらのよい雰囲気を残したまちにある学校である。校庭の周りには大きな木に囲まれ、実をつける木も多い。地域は住宅地が中心であるが、1年生でも5分で行ける掃部山公園など緑豊かな公園がすぐそばにあり、子どもたちは自然にも親しめる環境で生活している。地域には、百年を越す歴史をもつ老舗があったり、伝統の技を受け継ぐ職人がいたりする。親子三代で同居している家庭もあり、本校を卒業した保護者や学校と共に歩んできた地域の方々が多くいる。そのため、学校を取り巻く雰囲気はとても温かい。また、周辺には、神奈川県立青少年センター、横浜市中央図書館、野毛山動物園などがある。さらに、みなとみらい地区まで足をのばせば、横浜美術館や三菱みなとみらい技術館、日本丸・横浜みなと博物館、神奈川県立歴史博物館があり教育施設に恵まれている。

こうした恵まれた環境の中で、子どもたちが総合的な学習の時間や生活科、生活単元を通して、まちや人とかかわることのよさを実感し、子どもたち自身が戸部のまち、そこに住む人を中心に、自然や社会の事物現象に主体的にかかわり、自らが答えを求めて動く姿を期待し、研究主題を設定した。

2 研究主題について

『自ら学びを創りだす子ども』とは

「自ら学びを創りだす子ども」とは「①思いや願いをもって身近な自然や社会、人などの学びの対象（学習材）とかかわり、友達と協働的に学び合い、②自ら課題を設定し、追究し、振り返りながら学びを連続・発展させていく探究的な学習活動を通して、『学びを創りだす力』（資質・能力及び態度）を身に付けたり、③学習材に対する理解を深め、共感・感動したりして『学びうる内容』（内容）にせまり、新たなものの見方や考え方を獲得・創出しながら自分の生き方や考え方を見つめ直す子ども」である。

『自ら学びを創りだす子ども』を育成するために

そのような子どもを育てていくために、次のようなことが教師には求められる。

①は、総合的な学習の時間、生活科、生活単元を行う上で、大切にしたい考え方であり、ア)『子どもありき』の考えに立ち、子どもの思いや願いから学習活動をスタートとすること、

イ) 戸部のまちや学校の「ひと・もの・こと」とのかかわること、

ウ) 学級を核として学習材を選定すること、

という3点を、本校では総合的な学習の時間、生活科、生活単元を行う上での「前提」として捉えている。そして教師は、その捉えのもとで、学習材を選定したり、単元を立ち上げたりしていく。

②は、学習活動としての「学び」が、子どもたちによって展開されていくものである、ということを示している。本校では探究の過程を「課題を設定する・追求する・振り返る」という3つの段階で捉えている。教師は常にその中心に子どもを置き、子どもが主体的に学習活動を展開することを目指していく。そして、その過程で、子どもに身に付けさせたい資質・能力及び態度である、『学びを創りだす力』を分析する必要がある。

③は、学習内容としての「学び」が子どもたち自身によって創りだされていくものであることを意味している。そのために、教師は、学習材のもっている意味や事実（『学びうる内容』）、学習材とのかかわりを通してどんな人との出会いが期待できるか等について教材研究を行い、その価値や可能性を見極めていく必要がある。

このような考えの下で、年間を見通した「単元構想」、探究の一過程としての「小単元構想」、一時間の「授業づくり」に取り組むことが教師には求められる。そうして、子どもが思いや願いをもって選定した学習材とのかかわりを通して主体的に展開する学習活動の中で獲得する『学びを創りだす力』『学びうる内容』こそが、子どもがこれから生きていく実生活・実社会の中で真に生きる力と知恵になっていくものと考えている。